

都市再生整備計画 事後評価シート  
三吉・琴平・広沢地区

平成27年3月

群馬県桐生市

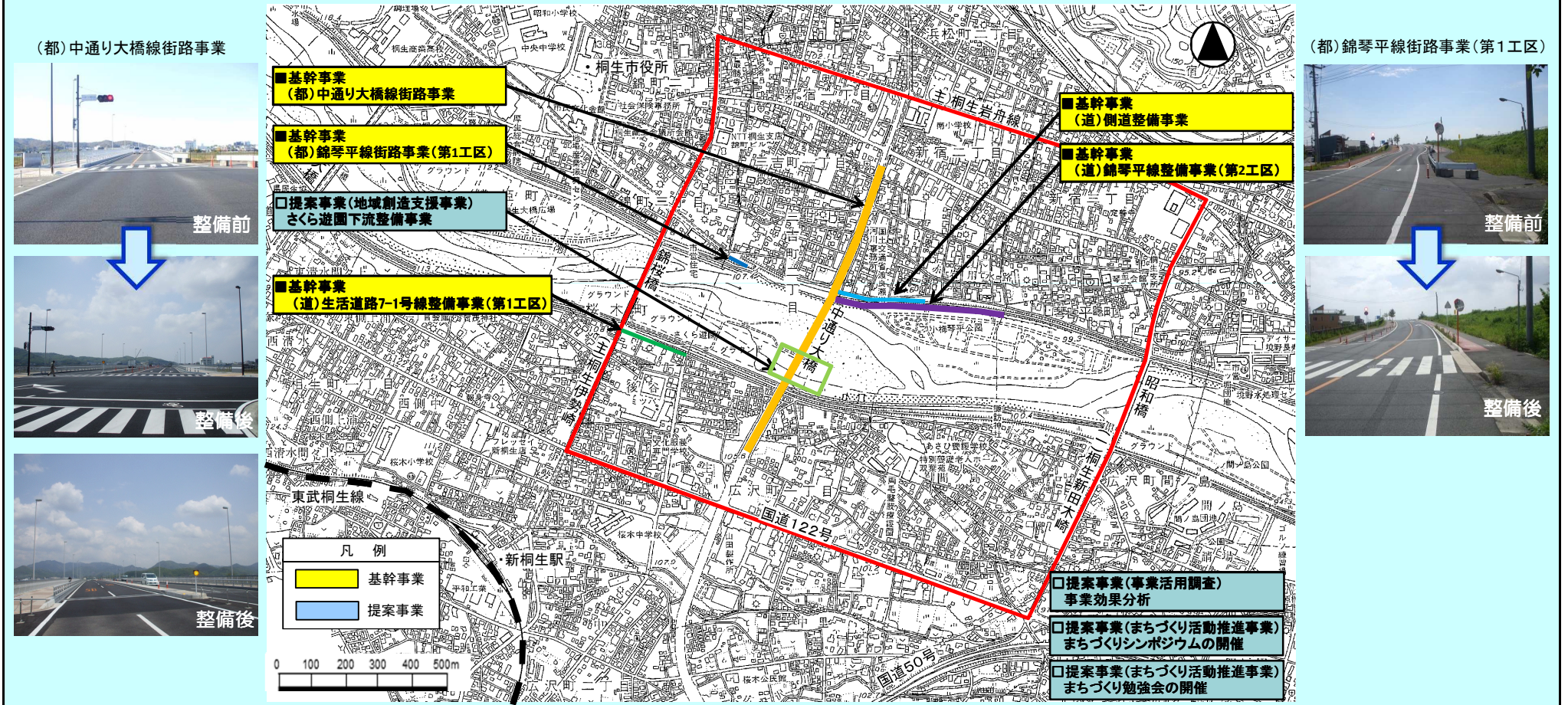
様式2-1 評価結果のまとめ

都道府県名	群馬県		市町村名	桐生市		地区名	三吉・琴平・広沢地区			面積	180ha		
交付期間	平成22年～平成26年度		事後評価実施時期	平成26年度		交付対象事業費	1,025百万円	国費率	40%				
1)事業の実施状況	当初計画に位置づけ、実施した事業		基幹事業		事業名 道路((都)中通り大橋線街路事業、(都)錦琴平線街路事業(第1工区)、(道)錦琴平線整備事業(第2工区)、(道)側道整備事業)								
			提案事業		事業効果分析、まちづくりシンポジウムの開催、まちづくり勉強会の開催								
	当初計画から削除した事業		基幹事業		なし		削除/追加の理由		削除/追加による目標、指標、数値目標への影響				
			提案事業		なし								
	新たに追加した事業		基幹事業		(道)生活道路7-1号線整備事業(第1工区))		幅員が狭く、地区住民の強い要望により追加		影響なし				
			提案事業		さくら遊園下流整備事業		国土交通省の護岸工事により、既存の公園がなくなったため、新たに地区住民の交流の場となる公園を整備するため追加		影響なし				
交付期間の変更		当初		なし		交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響							
		変更		なし									
2)都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指標		単位	従前値		目標値		数値		目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期
				基準年度	目標年度	モニタリング	評価値						
	指標1	競合路線の交通量の低減	台	10,857	H17	9,700	H26		9,647	○	あり なし	都市計画道路の整備により、交通が集中していた競合路線である主要地方道桐生岩舟線の交通量が低減した。	H28年度内
指標2	満足度(道路の広さや安全)	%	46	H20	60	H26	43	47	△	あり なし ●	進捗が遅れている事業が直接的な原因となり、数値目標を達成できなかったが、完了している事業が一定の効果を発揮し、満足度は上昇傾向であることは評価できる。	H28年9月頃	
3)その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況	指標		単位	従前値		目標値		数値		目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期
				基準年度	目標年度	モニタリング	評価値						
	その他の数値指標1	競合路線の交通量の低減	台	17,955	H17			12,499				都市計画道路の整備により、交通が集中していた競合路線である主要地方道桐生伊勢崎線の交通量が低減した。	H28年度内
その他の数値指標2	地区内の自主防災組織の活動回数	回	0	H24			3				まちづくりシンポジウムやまちづくり勉強会の開催をきっかけに、地区住民の防災意識が高まり活動回数の増加につながった。		
4)定性的な効果発現状況	新設された中通り大橋線及び錦琴平線の整備により歩道が整備されたため、通学路として指定され、安心して通学することができるようになった。												
5)実施過程の評価			実施内容				実施状況				今後の対応方針等		
	モニタリング		情報政策課実施の「市民の声」アンケートによるモニタリング				都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				● ● ●		
	住民参加プロセス		地域住民への事業説明会の開催				都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				● ● ●		
	持続的なまちづくり体制の構築		まちづくり勉強会				都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				● ● ●		

## 様式2-2 地区の概要

### 三吉・琴平・広沢地区(群馬県桐生市) 都市再生整備計画事業の成果概要

まちづくりの目標	目標を定量化する指標		従前値		目標値		評価値	
特定道路への交通集中の低減と地域間の連絡性を図る道路整備により、市街地の利便性の向上を創出し、地域の安全・安心・快適で活力あるまちづくりを進める。	競合路線の交通量の低減	単位: 台	10,857	H17	9,700	H26	9,647	H26
	満足度(道路の広さや安全)	単位: %	46	H20	60	H26	47	H26



まちの課題の変化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中通り大橋の整備により渡良瀬川で分断されていた市街地の一体化が図られ、連絡強化につながった。</li> <li>・中通り大橋線及び錦琴平線の整備により、密集住宅市街地の改善が図られ、主要地方道路桐生岩舟線の交通量が低減したが、依然として密集住宅市街地の改善が必要な地域が多く残されている。</li> <li>・災害時の避難路、輸送路及び延焼遮断帯となる中通り大橋線及び錦琴平線が整備された。</li> <li>・中通り大橋線の整備により国道50号から市街地へのアクセスが向上した。今後、国道50号から北関東自動車道ICへのアクセス道路の整備が求められる。</li> <li>・さくら遊園下流の整備により、市民の交流や活力につながった。</li> </ul>
今後のまちづくりの方策(改善策を含む)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・幹線道路が格となり、地域住民と一緒にさらなる幹線道路の整備と共に生活道路や公園の整備を推進し、安全・安心・快適で活力あるまちづくりを進める。</li> <li>・密集住宅市街地の改善のため、面的な整備や道路の拡幅整備のハード事業、住民主体のまちづくりや防災意識の啓発などのソフト事業から、地域の実情に合った改善策を実施する。</li> <li>・北関東自動車道ICへのアクセス道路については、県や関係自治体と調整を図り整備を促進する。</li> </ul>